

中国ではゼロコロナ政策中止から2カ月で約190万人の超過死亡…3大学の詳報資料などから推計

9/10 日刊ゲンダイ



【役に立つオモシロ医学論文】

新型コロナウイルスの感染拡大を、都市封鎖などの強権的な手法を用いて抑え込もうとする政策は「ゼロコロナ政策」と呼ばれます。特に中国では、徹底したゼロコロナ政策が実施され、新型コロナウイルス感染症による超過死亡率（本来想定される死亡率を超過した割合）は、世界的に見ても低い水準にありました。しかし、2022年12月に同国のゼロコロナ政策が中止されると、新型コロナウイルスの感染が急速に拡大し、入院件数も大幅に増加しました。

そんな中、中国におけるゼロコロナ政策の中止と、超過死亡の関連性を検討した研究論文が、米国医師会のオープンアクセスジャーナルに2023年8月16日付で掲載されました。

この研究では、中国のインターネット検索エンジン、百度（バイドゥ）のデータを用いて、死亡に関連した言葉（葬儀場、火葬場、埋葬など）に関する検索の頻度が分析されました。また、北京大学、清華大学、ハルビン工業大学の3校が公表した計報資料のデータも踏まえ、中国全土における30歳以上の成人に対する超過死亡率が推定されています。

その結果、ゼロコロナ政策の終了から2カ月間で、推定187万人（人口1000人あたり

1.33 人) の超過死亡が確認されました。統計学的にも有意な死亡率の増加は中国全土で観察され、最も低い広西チワン族自治区においても 77% の増加、寧夏回族自治区では 279% の増加を認めました。

中国当局は、ほぼ同時期の超過死亡者数を 6 万人と公表していましたが、その数を大幅に上回る結果となっています。論文著者らは「この研究結果は、新型コロナウイルスの急速な感染拡大が、死亡率にどのような影響を与えるのかを理解する上で重要である」と結論しています。

(青島周一／勤務薬剤師／「薬剤師のジャーナルクラブ」共同主宰)